

"しんじ"を信じる 京都府議会議員 第7号

編集・発行
ニノ湯しんじ事務所

ニノ湯しんじ通信

〒616-8167
京都市右京区太秦多藪町44-1
TEL: 075-862-1355
FAX: 075-862-1350

✉ ninoyushinji@palette.plala.or.jp

～今こそ、伝統が未来を拓く!～



テレビ中継

『3月5日(金) 13:00～17:00』
@KBS京都テレビ
予算特別委員会で総括質疑を行ないます

偽らず、恐れず、政治の原点に戻ってがんばります。

日ごろより大変お世話になりました。誠にありがとうございます。

さて、最近の政治について、『自民党は、いまだ与党ボケで「反省した」「変わった」との印象を与える党改革がなされず、期待できない。だから、民主党には幾つものマニフェスト違反や政権運営への不安はあるが、まだ5カ月だからもう少し任せよう』というのが、多くの国民の考えだと思います。選挙の結果とはいえ、この異常事態で損失を被っているのは国民です。

政治の正常化への順序は、まず「政治とカネ」にはじめをつけることですが、今は大況と時代の大転換が同時に訪れています。景気対策と同時に、政治家が大所高所から国家100年の計を論議することが不可欠です。「平成の脱税王」鳩山首相と、「ゼネコン裏金疑惑」の小沢幹事長の恥知らずが、政治の停滞の元凶ですが、自民党も、疑惑追及にとどまらず、国民に「希望ある社会像」を示し、そこに至る道のりを大々的に示すべきです。経済の高度成長はもう無く、人口減少や少子高齢化もあるから、国民は甘い言葉ではなく本当のことを聞きたいのではないのでしょうか。今よりモノやお金が少なくても、同時にある種の希望があるなら、そこへ向かって頑張っていけるのです。子ども手当て等のバラマキで来る参院選挙で勝利するという程度の態度では、この国は誤ってしまします。

それができないのは、議員の保身です。鳩山総理も小沢民主党幹事長も、自民党が総選挙前に麻生降ろして党内が乱れたのも、全て保身が原因です。政治家であり続けたいと思えば、国民には耳が痛くとも知らせなければならぬことも、おかしなことも、立場が悪くなるなら口をつぐむのです。しかし、政治家が正義と思つことを言わず、誰もができる当たり障りの無いことを言うだけなら、その人が議員である理由はありません。

それを踏まえて、私は私なりの議員活動を行います。30歳、1期目でも堂々とやります。時代は変革を急いでいます。引き続きのご指導をお願いします。

谷垣総裁、大島幹事長に物申す

1月23日、自民党大会に先立ち開催された全国青年部長・青年局長合同会議と女性局との合同大会に出席しました。会議では大島幹事長が「民主党の政治とカネの問題を追究し、政治への信頼を取り戻す」と挨拶されたので、私は「政治とカネは自民党がまず身を切るべき。鳩山総理と小沢幹事長の問題は、党内の鳩山邦夫議員と二階俊博議員の問題と同様であり、党内の2人にまず離党勧告をすべきだ」と訴えました。大島幹事長は「2人は既に役職を離れている」と応じられたので、続く大会において谷垣総裁に「大島幹事長は鳩山・二階両議員の問題を党の役職辞職で幕引きを図ろうとしているが、国民には到底理解できない。自民党が離党勧告という厳しい処分を下せば、鳩山総理も小沢幹事長も辞職を避けられなくなり、政治とカネの問題に一応の決着がつく。そして早急に国民が求める景気対策や政策論議に移るべきだ」と訴えました。会場から多くの共感の拍手を頂きましたが、執行部による処分は未だありません。



テレビ中継

『3月5日(金) 13:00～17:00』
@KBS京都テレビ

私は、前半に登壇しますので、是非テレビをご覧ください。

予算特別委員会で総括質疑を行います

現在、京都府の平成22年度予算案の審議が進んでいますが、3月5日にはそれに対する総括質疑が行われ、自民党を代表して私も質問に立つことに決まりました。今回の予算案は、知事選挙を控えているため、必要不可欠なもののみが計上されている骨格予算案です。が来る選挙に立候補を表明している山田知事は、自らの想いをきっちり反映させているはずですが、

そこで、

● 民主党政権の予算案による

● 京都府予算への影響について

● 京都産業と地域社会の展望について

● 京都の環境と文化について

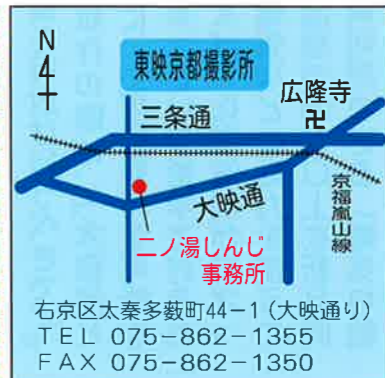
を質問する予定であります。厳しい時代だからこそ、政治が率先して府民に夢や希望、そして安心感を与える言葉を、堂々と発していくべきであります。真正面から知事に論戦を挑んで参ります。

なお、本会議での質問の様子は、府議会HPでもご覧いただけます。
http://www.pref.kyoto.jp/gikai/

お困りごとなど

「ご相談ください」

皆様にとって、行政の仕事の役割分担は分かりにくいものです。「どこに相談に行けばいいのかわからない」とお悩みの時は、私の事務所まで、お気軽にお問い合わせください。



右京区太秦多藪町44-1 (大映通り)
TEL 075-862-1355
FAX 075-862-1350



◆とも語り合いましょー!
ニノ湯しんじ事務所まで
◎お問い合わせは、

2月定例会の日程

- 2月4日～16日
・本会議
- 2月16日～3月3日
・予算特別委員会
- 3月4日・本会議
- 3月5日・予算特別委員会
総括質疑
- 3月8日～9日
・常任委員会
- 3月10日・特別委員会
- 3月11日・予算特別委員会
- 3月12日・本会議

厳しい不況が続くなか、切れ目の無い景気・雇用対策を盛り込んだ平成22年度予算を中心に審議が行われています。

ホームページもご覧下さい!
URL: www.ninoyu.net

ニノ湯しんじ 検索

◆インターネットラジオ放送で、「ラヂオしんじ」の配信を始めました。

く色々な形で活動をお伝えします。皆様からもご意見や感想をお願い致します。

働くこと(傍を楽にする)を通じて人々に認められ、やりがいと生きがいを感じられる「希望ある社会」を創ろう!!

急激に進む「地球温暖化」や「人口爆発」そして「中国など新興国の経済発展」等が、世界の状況を大きく変化させています。水・食糧・エネルギーが不足し、その奪い合いから各地で武力衝突が起こるかもしれません。

少子高齢化が進む我が国は、それらに加えて資源確保の点からも、社会保障・安全保障のあり方、国の経済・産業から個人の働き方・暮らし方まで、抜本的に見直す時期にきています。私はそれらを見直す際、日本の伝統的な暮らし方に根差した「大自然と調和した潤いある生活」という価値を最大限に尊重すべきだと思います。

ニート・フリーター・ひきこもり…。現代の若者は、将来に希望を感じにくいのではないのでしょうか。これから社会で活躍する若者には、現状をしっかりと伝えて将来求められる職業を明確に提示し、責任感や希望を持って仕事に取り組めるようにすることこそ、政治の大きな仕事だと考えます。私自身、少しずつでもそのことに取り組んで参ります。

◆農業・食品関連産業



<京丹波町の農場> <沖縄県の農産物直売所>

世界の食糧不足は必ず起きます。日本は、国土保全の点からも、農地をフル活用し食糧自給率を高めるべきです。その意味で、農業は不可欠な尊い仕事なのに、しんどいわりに儲からないため、後継者・担い手不足が止まりません。このままでは、あと5〜10年で農村の崩壊から日本は非常事態に陥ります。

その危機感から、「農商工連携」による稼げる農業が各地で模索されていますが、生産・流通・加工・販売を通して多くの課題があります。

「先祖伝来の土地」の概念が強く、農地の集積がしにくく大規模化が難しい。大ききや形が悪い「規格外品」が流通に乗らず多く捨てられる。農業者同士が、栽培技術などを共有し切磋琢磨する習慣がほとんどない。直売所は、店舗の増加で農家の利益が確保できない程の価格合戦が激化している、などなど。自然を相手に多くのお金と労力が必要な農業に、他産業からの進出も難しいようです。

しかし、IT技術を駆使して栽培技術の蓄積・共有と単価計算を実現し大規模な企業型の農業を営む企業、また安い規格外品を調理するレストランや単身向けの「ミニ野菜」として売出す八百屋、デパートのものより高品質の商品を扱い農家の利益を確保する直売所など、成功している事例も見られます。

我々の命を支える農業。「普通の農家が頑張れば生活できる」制度を模索して、これからも調査・研究を続けます。

◆林業・木材関連産業



<日吉町森林組合の作業現場>

戦後植林された針葉樹中心の森林が、木材価格の低迷と人件費の高騰等による林業の長期不振で荒れています。林業労働者は、給料・社会保障も不十分で、若者の新規就労も少なく、減少と高齢化が止まりません。



<宮崎県木材利用技術センター>

ただ、国産材と外国産材との値段の差が縮まり、環境意識の高まりもあって、「木材も地産池消で」という方が増え、京都府も「府内産材を一定以上使うと補助金を出す」制度を設けていますが、更なる努力が必要です。

生産現場(森林)は、高性能機械が使えるように路網を整備すれば、低コストの施業が可能となり、森林の整備が進み、木も売れ、雇用も生まれます。しかし現状は、全国的に森林の所有者やその境界線が不明確となってきたり、そうした環境整備が進んでいません。また、施業が「京都産を」と要望しても、木材の流通業者は横の連絡がほとんど無く、必要な木材の調達に困り消費が増えにくいのが現状です。木材の消費が増えれば、山主も山への関心を取り戻すはずですが、「消費を増やすには」との観点から、流通・生産のそれぞれの構造改善を図る、そのことを通じて山村地域の安定した雇用も確保して、国土の保全をしっかりと図る、このことを主導するのは行政の責任だと考えます。

大学生の想い「このように働きたい！」

現在、ニノ湯しんじ事務所では4人の大学生が研修をしています。「将来、働くことを通じてどのように社会に貢献したいか」、皆の想いを紹介します。

- ◆原田剛志(立命館大学3年生)：社会が多様な法律の役割が増大している現代において、自らの知識を活かし法律問題で困っている人々を助けていきたいです。
- ◆柳瀬正統(立命館大学1年生)：社会が大きく変化するなかで、社会を先取りして次の世代により影響を残したいです。
- ◆三浦修平(京都大学1年生)：：外交面・経済面・法制度面における、日本の世界での相対的な地位向上に貢献していきたいです。
- ◆辻 敦子(立命館大学1年生)：：現代、都会へ移り住む若者が多いが、私は故郷へ戻り生活し、その文化・伝統を子孫へ継承したいです。

◆製造業



<電気自動車の展示> <京丹波市の製造業の工場>

戦後、日本経済を牽引し物質的な豊かさを提供してくれた製造業は、京都府では今なお2兆3895億円、全体の23.7%生産額(平成19年度)を上げる重要な産業です。大部分は中小零細企業で、まさに勤勉で細やかな農耕民族である日本人の知恵と能力の集大成と言えます。しかし、世界規模の競争の中で、安い労働力を求める工場の海外進出は、この大不況をきっかけに一層進行しています。

今後は、産官学が協力して科学技術をはじめとする研究開発を進め、環境技術に見られるように世界一の分野をたくさん創る、また世界の模範となる新製品を試作するなど創造性や技術力で勝負することが重要で、その顧客や市場を世界規模で開拓する支援を行政は行うべきです。

研究・開発・試作の際には、「大自然との調和」を念頭に、「環境負荷を可能な限り0に近づける」という哲学で行えば理想です。例えば、化学溶剤が混ざった水や空気を、電気などの動力を使うことなく分離し、溶剤の95%以上を新品同様の質に戻して再利用できる(電気自動車のリチウムイオン電池にも有効) 機材を開発して、世界的に活躍されている企業を知っています。

こうした画期的な技術を中心に、環境負荷が限りなく0に近い産業構造を創り上げていく使命と夢が、日本の製造業にはあると思います。